

3回シリーズの2回目は、
「親の生涯の生活は成り立つのか」
というテーマで、

親の老後の生活を考えていきます。

今回のお話は、
実際に相談を受けた例を基にお話しします。

従って、
実際に今回の事例のようなことが起こった場合は、
今回の事例を参考にさせていただき、
家庭ごとのご事情に即した対応が必要です。

親は、親とは思うけど

生まれて以来、
長期間に渡ってご自身の心配してくれるのは、
親に間違いありません。

子どもが、
その親の心配をするのは、
子どもにとっては恩返しでもあります。

しかし、子どもに心配をかけたい親はいません。

何らかの理由で生活に困り、
子どもに相談するのは、

子どもに心配をかけたくない
親の気持ちも働き、

切羽詰まった、
最後になることも多いようです。

また、子どもは、
親は親自身で生活のことは
考えているから大丈夫だろう。

とは思いながら、
親が年金生活に入るとき、
子どもの中には

形式的に、これからは経済的に大丈夫か？

親に尋ねることはあるでしょう。

またその時に、
親は親の家計収支を含め、
これからの老後生活の構想を子どもに語って、

そこで、親が子どもに心配事を話しても、

親の年齢から言っても、
子どもが理解するには、
まだ尚早の時期でもあります。

親が、生活が苦しいとは言わない

親が老後の生活を始めて、

現役時代と家計収支での
お金の出入りの違いに気づき
将来の家計を案じて、
子どもに相談してきたら、

子どもは、親の話を真剣に聞いて、

本当に、今後家計が苦しくなるのか、

判断し、対策を打つことが大切です。

ただこの時期に、
親が直接子どもに相談することは少なく、

それこそ、
私たちファイナンシャルプランナー（FP）に、
家計診断を依頼して見える時期です。

その結果、

このままで生活に問題ない、
または家計支出を若干抑えた方が良いなど、

FPからのアドバイスで済むような家計の場合は、
子どもにFPに相談したことすら
言わないかもしれません。

親に相談されたらすぐに手を打つこと

親が子どもに生活が苦しいと話す段階は、

- ・親が現役時代と同じ水準の生活ができなくなった時
- ・家計支出を減らす生活に疲れた時
- ・クレジットカードや住宅ローンを含め
借入金の返済が困難になった時

など、多くの場合は、

親が自己努力をしても、
二進（にっち）も三進（さっち）も
いかなかった場合が多く、

このような場合は、
親子で、早急に対策を練ることが必要な場合です。

とはいうものの
子どもが親から、助けを求められても
子どもはすぐに対応できない場合が多いです。

つまり、
子どもの年齢、家族構成や収入によって、
親の援助が出来たり出来なかつたりします。

また、
子どもが援助をする場合、
子ども夫婦の片方の親だけで済むのか、

複数の子どもがいる場合は、
親の援助をするための負担は均等にするのか、
どのような割合にするのか、

といった問題の解決が先決になります。

また、子どもの内に当事者の親夫婦と同居していると、その子どもの負担割合が多くなる、または全額負担することもあるようですが、

ここは、いくら同居していても、二世帯、親と子ども、個々の家族として、考える必要もあります。

いろんな場合が想定されますが、

親が子どもにお金の相談をするのは、

通常、非常事態のことが多いですので、早急な対応が望まれます。

再発を防ぐ対策

親の家計が破たんする、

といった最悪の事態は子どもの協力で防ぐことができても、

親の家計収支を変えないことには、再発しかねません。

また、子どもの家計収支にも影響を与えます。

再発を防ぐためには、

子ども全員で、親の家計収支の改善をすることです。

実際には、親が、老後の生活に入る前に、親子で、親の描く老後の生活は可能か検証し、必要であれば修正しておくことが最善です。

と同時に、次回のテーマになりますが、

一言でいえば、
その時に、親の資産がみえてくることも
親子ともに重要なことです。

なぜ重要なのかは次回お話いたします。

今回は、具体的に
親の家計を改善する方法のお話はしていません。

それは、冒頭にお話いたしました、
その家庭ごとに違うからです。

しかし、
親は、子どもに心配を掛けたくない。
だから、
子どもから親の心配をする。

どこのご家庭でもできることです。

*****:
■「人生の添乗員 (R)」からのワンポイントメッセージ
*****:

親は子どもに心配を掛けたくない

だから、
親が活着ている間は、
子どもが親の心配をするのです

*****:
■人生の添乗員 (R) 牧野寿和のプロフィール
*****:

日本で唯一「人生の添乗員 (R)」を名乗れる

公正中立な独立系ファイナンシャルプランナー

開業 16 年目

1958 年 名古屋市生まれ、大学（東海大学卒業）以外は、名古屋で生活をする。

1982 年～2001 年 旅行会社に勤務。業務で世界各地を廻っていた時、日本の方と他の国の方々のお金との付き合い方の違いを感じていた。そんな時渡米した折に、初めてファイナンシャルプランナーの存在を知り、日本でもこの業務の必要性を認識する。

2003 年 牧野 FP 事務所を創業。
2018 年から牧野 F P 事務所合同会社を設立。

これまでに、延べ 900 件以上の様々な相談に対応。

現在は、相談者へのプランニングの助言と提案を主な業務とし、

相談者に、安心できる生活が送れるように、

丁寧な業務を心がけている。

<保有資格>

- ・ NPO 法人日本ファイナンシャルプランナーズ（FP）協会 CFP（R）認定者
- ・ 1 級ファイナンシャル・プランニング技能士（資産設計提案業務）
- ・ 福祉住環境コーディネーター
- ・ 総合旅行業務取扱管理者 など

<取材協力>

メ～テレ（名古屋テレビ）「UP！」

<出版>

「銀行も不動産屋も絶対教えてくれない！
頭金ゼロでムリなく家を買う方法」河出書房新社

<監修>

「空き家」に困ったら最初に読む本」河出書房新社

なぜ、「人生の添乗員（R）」なのか？

詳しいプロフィールはこちらから

http://www.makino-fp.com/documents/fpmakino_009.pdf

現在、相談を受けている方は、名古屋市内はもとより
愛知、岐阜、三重県、
ご紹介をいただいて、首都圏や関西にも
足を延ばす機会が増えてきました。

「人生の添乗員 (R)」どこまでも行きます。

他人を気にすることなく、
相談者ご自身にとって
有益な提案を心がけています。

*:

■ 編集後記

*:

親は子供に心配を掛けたくない

今回は、何度となくこの言葉を書きました。

親は、自分たちのお金の心配をすることなく、

成人した子どもや孫のお節介を焼く、

優雅な老後の生活かもしれません！

【人生の添乗員 (R)】からのワンポイントメッセージ

来週もご愛読のほど、
よろしく願い申し上げます。

「人生の添乗員」「人生の行程表」は牧野寿和の登録商標です

■ 【人生の添乗員 (R)】からのワンポイントメッセージ

発行：

牧野FP事務所合同会社 代表社員 牧野寿和
〒467-0823 名古屋市瑞穂区津賀田町2-86

■登録・解除は、ご自身でお願いいたします。

こちらから出来ます。

<http://www.mag2.com/m/0001575058.html>

■本メルマガに関するご意見・お問い合わせはこちらまで
お願いいたします

E-MAIL : makino.fp@beach.ocn.ne.jp

牧野FP事務所合同会社 公式サイト : <https://www.makino-fp.com>

■記事内容に関してのトラブル等について当方では一切責任を負いかねます。
ご自身の責任でご判断下さい。
